

# HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No. 17

## 東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日  
例会日 毎週月曜日 12:30～  
例会場所 シェラトン都ホテル大阪  
事務所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38  
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号  
TEL. 06 (6772) 2320  
FAX. 06 (6772) 2327  
E-mail:hcrc@at.wakwak.com



会長 切石博之  
会長ノミニー 浅野光男  
副会長 宮崎康治  
幹事 細川勝治  
会報委員長 岡田忠彦

## BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS 地域を育み大陸をつなぐ

2010～2011年度 国際ロータリー会長 レイ・クリンギンスミス

第 1788 例会 平成 22 年 11 月 22 日 (月曜日) 第 17 号

### 本日の例会

11月22日(月)第4例会

- ◎ソング 「奉仕の理想」  
◎卓話 「驚きのケニア滞在 2週間」  
ゲストスピーカー ヒューマン リソース研究所長  
鈴木 民二氏  
(担当: 郷田清義会員)

◎本日の献立 おまかせ定食

### 次回の例会

11月29日(月)第5例会

- ◎卓話 「大阪府域の自治制度 現状と今後」  
ゲストスピーカー 大阪維新の会 西野弘一様  
大阪府議会議員  
(担当: 林 孝信会員)

◎本日の献立 フランス料理

### 前回の例会記録

11月11日(木)第3例会

### [東輪会合同例会]

◎来賓・ビジター紹介 東大阪みどりRC 島 啓介  
国際ロータリー第2660地区 吉川謹司パストガバナー

◎物故会員に対する黙禱  
東大阪みどりRC 会長 杉森隆志  
黙 禱

**会長挨拶** 東大阪みどりRC 会長 杉森隆志  
皆様、こんにちは。東輪会合同例会に多数ご出席頂きましたことに厚くお礼申し上げます。  
昨年度までの東輪会合同例会はガバナー公式訪問とい

うことで、ガバナーに卓話を頂く形をとっていましたが、今年度、松本ガバナーは各クラブを回っておられます。今日は講師をお招きしての例会となりました。今年の奈良は遷都1300年、奈良には東大寺の大仏さんはじめ世界的な遺産が数多くあり、盛沢山なイベントが行なわれています。そんな中で仏像ブームとも言われており、代表するのが興福寺の阿修羅像ではないかと思えます。去年、世界各地で色々な展覧会が催されましたが、その中で一番入場者数が多かったのが東京国立博物館で行われた興福寺の阿修羅展であったということです。その数95万人で、九州でも開催され、地元の奈良に戻ってからも沢山の来客が来られて約200万人になるそうです。

奈良では伝統的な行事が色々行われ、お水取りなども毎年ニュースで流れますが、どういう意味があるのかよく知らない部分があります。お水取りは正式には修二会と言われ、国民がいつまでも平和に暮らせるよう万民幸福のために、そして、一人ひとりが二月堂の観音様の前で自分の罪を反省し、東大寺の僧が成り代わって観音様にお詫びをする、その二つの意味を持つ儀式だそうです。今は政界、財界、教育界、課題は山積みです。その中で我々個人が省みて 未来のためにしっかりと頑張っていこうという心構えが大事ではないかと思えます。

今日は、興福寺の貫首様のお話をお伺いする中で、内省の気持ちが日本国中に広まっていけば、素晴らしい国になるのではないかと思います。そういった気持ちでお聞き頂ければ幸いです。どうかよろしくお願い致します。

### 幹事報告 東大阪RC 幹事 清水浩一

- 2010～2011年度国際ロータリー・ゾーン 1.2.3 第39回ロータリー・ゾーン研究会

11月24日(水)～27日(土)  
大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル

2. 麻薬覚せい剤乱用防止運動大阪大会

11月14日(日) ホテルメトロ 21

13:00～16:00

3. 奄美大島地方の豪雨災害に対する義援金のお願いが  
きています、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

## 出席報告

本日の会員数	39名
本日の出席者数	18名
本日の出席規定適用免除会員	11名
本日の出席率	60.00%
11月1日の修正出席率	85.29%

## SAAニコニコ箱

東大阪中央RC SAA 大石忠克

切石会長 東輪会合同例会を祝して。

細川幹事 東輪会合同例会を祝して。

## 記念講演

### 講師紹介

東大阪みどりRC 実行委員長 辻 茂

今年は暑い暑い夏でした。奈良では平城遷都1300年に燃えた年となりました。その中で特に重要な位置にあったのが興福寺であったと思っています。本日は興福寺貫首、多川俊映先生の記念講演をお願いしています。多川先生は平成元年、興福寺貫首に就任され現在に至っております。パリ、グランパレ美術館での「日本仏教美術の宝庫：奈良興福寺展」に122点の寺宝を出陳され、日仏文化交流を皮切りに各地での展示、講演活動を行なわれ、書籍も沢山あるという、今一番タイムリーなお方をお迎えできたと喜んでます。興福寺は1998年、世界遺産に指定され、皆様よくご存知の阿修羅像は人気が高く有名です。2009年世界中での展覧会動員数ランキング1位は東京国立博物館で開催された「国宝阿修羅像」と報じています。本日の記念講演のテーマは「平城遷都1300年 内省うながした阿修羅像」です。多川先生、どうかよろしくお願い致します。

テーマ「平城遷都1300年 内省うながした阿修羅像」

興福寺 貫首 多川 俊映先生

※ 内容は割愛させていただきます。

## 講師への謝辞

東大阪東RC 会長 石田 肇

謝辞を申し上げます。多川先生、本日は天平の時代を表す言葉として、典雅、端正、剛勁を教えてください、本当に素晴らしい言葉であると感動致しました。

また、阿修羅像展に沢山の皆さまが拝観されたというこ

とですが、私は以前にNHKの番組で阿修羅像のことをしっかりと見せて頂いて、感動したことを覚えています。天平の方が阿修羅像を本当に端正に作られて、内側まできっちりで作られているということを知り初めて勉強させて頂きました。阿修羅像が仏教の守護神であることも初めて拝聴し、新たな勉強をさせて頂いたと嬉しく思っています。

また、仏像に対する先生の考え方をお聞きし、これも私にとって大きな勉強であると感じています。私も仏教徒ですので、仏教に対する考え方、人生に対する考え方を真摯に受け止めたいと思います。本当に素晴らしいご講演を頂きまして、拝聴させて頂いた東輪会5クラブのメンバーは新しい知識を頂戴できて、本日の東輪会合同例会が実のあるものになったと感謝しています。本当に貴重なお話を有難うございました。

## 次年度ホストクラブ会長挨拶

東大阪RC 会長 富岡成夫

皆さん、こんにちは。本日の東輪会合同例会開催にあたりまして、東大阪みどりRCの皆様方にはお世話になりました。改めて御礼を申し上げます。加えて、私が尊敬させて頂いています興福寺の多川先生のご講演も拝聴することができました。素晴らしい例会であったと思います。

さて、次年度は私達東大阪RCが当番です。当クラブは今年度、「ロータリーの絆を大切にしよう」をテーマに掲げ、親睦活動委員会は「笑いのたえない例会にしよう」をテーマに進めています。来年度の東輪会合同例会は笑いのたえない楽しい合同例会にしたいという思いで準備を重ねていきたいと考えています。皆様方の多数のご参加を心からお願い申し上げます。

余談ではありますが、次年度、東大阪RCは創立55周年を迎えます。その事業の一環として以前にも発行致しましたが、東輪会5クラブ全員のロスターを発行したいと考えています。その際には皆様方のご協力をどうかよろしくお願い致します。本日は有難うございました。

## 閉会の辞 東大阪中央RC 会長 切石博之

皆さん、こんにちは。本日の閉会の言葉を述べさせて頂きます。東大阪みどりRCの皆様、本当にお世話をお掛けし有難うございました。また、沢山の皆さまに最後までお残り頂いて、合同例会を盛り上げて頂いたことに心からお礼申し上げます。

次年度ホストをお務め頂きます東大阪RCの富岡会長より、次年度は笑いのたえない楽しい東輪会合同例会にしたいという力強いお言葉を頂戴し、来年を楽しみにしながら、本日の東輪会合同例会を閉会させて頂きます。有難うございました。

## 2010~2011 年度東輪会合同例会

### 記念講演

#### テーマ

### 「平城遷都 1300 年 内省うながした阿修羅像」

興福寺 貫首 多川 俊映先生

阿修羅像につきましてお話を申し上げます。その前に、阿修羅像が制作されました天平時代、奈良時代のことをお話申し上げてから阿修羅像の話に入っていきたいなと思っています。

ご承知のように、今年は平城遷都 1300 年を迎えて、地元にいる私どもも始まるまでは、成功するのだろうかかと随分危惧し、「せんとくん」だけが有名になってしまいました。お蔭様で成功したということで 360 万余の人々が奈良に來られて、今年は奈良が大変賑わっています。同時に興福寺も創建 1300 年を迎え、今年は非常に重要な通過点となっています。

奈良時代は天皇が七代、期間は 70 数年の短い都で、今の感覚からいうと一瞬のことですが、古代としては 70 年を超えて国の都であったというのは異常に長いといえます。ここから日本が、実質的に国家形成がなされてきたということです。奈良時代は頻りに唐時代の中国に人を派遣し、進んだ文化を果敢に導入しています。ここで日本という国の名前が生れて、それが 1300 年も続いているのは日本だけです。日本の実質的な始まりが平城京であることを、今年、多くの方が、平城京の中に復元された第一次大極殿の前で噛みしめられたのではないかという気がしています。これはこれからの日本にとって大変有意義なことだと思います。

天平時代というのを一言で把握するのは大変難しく、血生臭いどろどろとした政争があった時代でもあります。古代の人はのんびり暮らしていたというイメージがありますが、古代こそ非常に厳格で、ストレスの多い時代であったと思っています。昔の政治家は命をかけて、ギリギリのところ勝負をしていたのが古代です。私どものお寺に五重塔があります。これは光明皇后がお造りになったものですが、落慶まで 1 年以内でできています。阿修羅像が安置されていた西金堂も光明皇后がお造りになり、これも 1 年以内でできています。特に西金堂は光明皇后のご母堂、橘三千代の一周忌に間に合わせるのが前提で、非常に厳しい時代であったというのが、奈良時代の一面であったとご理解頂ければと思います。また、唐からもたらされた天然痘が流行し、多くの人たちが命を落としています。私たちの手元に伝えられている天平の文物が沢山ありますが、暗い一面はあったにせよ、残された文物は非常にきりりと、すっきりしていると感じることができます。

天平時代を 3 つの言葉で表現すると、典雅、端正、

剛勁、「疾風に勁草を知る」という言葉がありますが、「強い風が吹いて初めて草が強いかわるが分る、強い草は生き残っている」という意味で、人間のことを言っています。剛勁は剛直とは違って、しなやかな強さがある言葉だと私は受け止めています。

阿修羅像は去年の 7 月から 9 月まで九州国立博物館に巡回し、71 万人以上の方々に拝観して頂きました。九博には仏像をチェックする CT スキャンの機械があり、CT スキャンにかけて、できてから 1260 年ぐらいたっていますので内部はどういうふうになっているのか、どういふような修理が考えられるのかと心配でしたが、ほとんど傷みがありませんでした。内部は空洞で、中心に心木が何本か入っており、その木の状態も映像で見ることができました。阿修羅像は乾漆像で、心木もきれいな木が使われており、内部に土くれもなく、天平の人は見えないところも非常にきれいに仕上げられています。阿修羅像を見た時に端正さ、清々しい感じを受けるのは、そういうところに一つの原因があるような気がしています。これが典雅、端正、剛勁という言葉で表現される天平の文物の状況だと感じ取っています。

昨年度 190~200 万近い方々が阿修羅像の前にお立ちになりました。仏像ブームを決定的にしたのが私たちの仕事だったのかなというふうに思っています。阿修羅像は去年初めて寺外に出たのではありません。一度だけ東京に出ています。昭和 27 年 2 月、戦後混乱の時に日本の良さに多くの方が飢えており、春日・興福寺展の 2 週間の会期に 50 万人が阿修羅像の前にお立ちになったという記録が残っています。仏像ブームの根源はこの時からあるのかなという気がしています。

阿修羅像は仏教の守護神です。阿修羅の最初はアフラ・マズダー (Ahura Mazdā) といって、ゾロアスター教の最高神で、アフガン、イラン、イラクで信仰された古い宗教です。アフラ・マズダーは正義、光、命を司る良き神で、阿修羅の出発点です。神話の世界で勢力のある神様は当然膨張し、インドに入ってきますが、インドラに負けて、戦いを好む悪神、好戦的な悪い神様の位置に貶められたというのが、インド神話における阿修羅像です。私たち日本人の阿修羅観はこの段階で止まっていますので、修羅場という言い方をします。そういうところから興福寺の阿修羅像を見ると「邪悪な戦いを好む悪い神様なのに、なんであんないい顔をしているの」というのが皆様共通の疑問です。最初に言いましたように阿修羅は仏教の守護神、仏教の世界では良き神です。阿修羅の立ち位置のイメージを何とか打開したいというのが興福寺の人間の希望です。これが昨年度の展覧会につながっています。阿修羅が

仏教の世界に入ってきて、お釈迦様の導きで反省し、仏教を護る神様になったというのが、仏教における阿修羅の現在の立ち位置です。興福寺の阿修羅像は上半身が裸で顔は優しく憂いを秘めています。顔が3つあり、左右の顔は少しヤンチャな表情が残っていますが、正面は本当にいいお顔です。宗教的な変身を重ねて、現在に至っています。阿修羅像は単体ではなく八部衆、仏教を護る守護神8体のうちの一体です。他の7体は武装した甲冑を着ていますが、阿修羅像はそれを脱ぎ捨てて何も持っていません。

そういう阿修羅像の前に昨年は190万人、今年に入ってから安置している国宝館に既に約100万人が拝観に来られています。どういうところに大きな原因があるのかは重要なことで冷静に判断していきたいなと思っています。一つは阿修羅像が持っている力、自分自身を振り返る、内省をさせていくような力が阿修羅像に込められているのかなという気がしています。修羅場をクリアした立場の阿修羅像の前に立っている私たち自身が、実は修羅場、修羅道の真っ只中であり、内省というものを多くの人たちが共有されており、これが阿修羅像ブーム、仏像ブームの一つの面だというふうに捉えているわけでもあります。また、男性は理想的な女性、女性は理想的な男性像を阿修羅像の中に見出しておられるようで、小顔、スリムなボディも魅力の一つ、外形に惚れ込んで追究しようとする方もいらっしゃいます。仏像は自己を問う鏡、自己の立場を問うていく対話の相手であるという感覚を、多くの方たちが共有されており、それが仏像ブームの一つの断面であるという気がしています。

仏教と言えば仏像、切っても切れない関係です。こういう点がイスラム教は気に入らなくて、偶像だといって仏像を壊したりします。仏教に仏像はいるのかからないのかと問われたら、ギリギリの選択でいらぬという立場が仏教の出発点です。実際にお釈迦様がおられた時代に仏像はありませんでした。何百年も立って紀元前後ぐらいになると、西洋のヘレニズム文化の影響もあって、仏像という造形が出始めました。今はどこのお寺にも仏像があり、仏師と称する職業があり、新しい求めに応じて新しいご仏像を彫っておられます。仏教の考えの根幹は気持ち、心だけがあればいいというのが出発点です。ただ、心や気持ちは極めて不安定です。流動して止まない心を一時的なりとも受け止めるものがなくて、これが仏教が考える造形、仏像の持っている意義の一番大事なところではないかという気がしています。イメージした仏像に気持ちを係留する、すると流動して止まない心が一瞬なりとも静止し、その中にある種のゆとりができます。昔の人は念持仏を

みんな持っておられたようです。係留する物として仏像があり、散漫な心が集中していく、集中している状況が仏教では非常にいい状況だと考えます。散漫な心の散と心で散心と言います。散漫な心が極めて悪い状況であると考えるのが仏教です。散心を集中した状況に持ってくる、禅宗で座禅をしたり、写経をする、日蓮宗の団扇太鼓などは自ずから集中すると、10人いると10人が非常にうまく合ってくる、集中している心がある種仏教の出発点で、これを定心と言います。散心から定心へというのが仏教のお題目で、そのためには何か道具立てが必要であり、その一つがご仏像であり、ご仏像を安置しているお堂であり、お堂がいくつか寄って伽藍というものが出来上がります。

最近、永井荷風の「日和下駄」という随筆を読みました。仏教の本の次に読む本が永井荷風で、彼の「断腸亭日乗」という膨大な日記の摘録が岩波文庫2冊になっています。これを見ますと如何に慧眼であったかという気がします。出てくること、おっしゃっていることが今の世の中にぴったりと当てはまるような日記を綴っておられます。「日和下駄」は、大正時代に下駄を履いて荷風先生が江戸のあっちこっちを歩いて随筆に綴っておられます。寺という項目のところで、西洋の教会と日本の寺院・神社の違いを論じておられます。西洋の教会はいきなり教会で門がない。日本の場合は門や鳥居があって徐々に入っていく。門や鳥居をくぐって玉砂利を歩いていく中で段々と心が静まっていく、そういう宗教的な道具立てが私たち人間には大事だという証であり、現実には私たちの手元におびただしいご仏像が伝えられています。それを単に仏教の美の鑑賞だというふうに解釈してしまっただけは大変もったいない、むしろ本質を見失っているのではないかなという気がしています。

心を静かに係留するものを私たち自身がどこかに求めています。こういう世の中でするので多様化され、価値が空洞化しており、何を基準にどう生きていったらいいかわからないというのが多くの人たちの共通した心持ちであり、それと仏像ブームはどこかで連動しているはずで、流動して止まない私たちの心というものを一時的なりとも係留したいというふうにしてあたりを見回したら、案外近いところに仏教の造形、仏像があるではないかというふうには、私たちの社会が見出したところに仏像ブームがあるのかなという気がしています。そうであるならば、この仏像ブームを一過性に終わらせることなく、どういうふうにして進化させ深めていくのかという課題が私どもにも与えられているのではないかということをお願いして、今日のお話を終わらせて頂きます。ありがとうございました。